第７課　イエスと困窮している人たち

【暗唱聖句】

「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、 主の恵みの年を告げるためである」ルカ4：18，19

【日曜日・マリアの歌】

天使ガブリエルから救い主を宿すことになることを告げられたマリアは、その半年ほど前に同じく天使から救い主の働きの道備えの働きをするヨハネが生まれることを告げられていた親戚のエリサベトを訪問します。すると、エリサベトは霊的洞察力によって、マリアがまだ何も言う前からマリアの身に起こったことを悟り、そのことのゆえに主を讃美します。それを受けてマリアも預言的に主を讃美します。

「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。身分の低い、この主のはしためにも目を留めてくださったからです。」ルカ1：46～48

マリアは自分の身に起ころうとしている素晴らしい神様の御業を喜びたたえています。何よりも、身分の低い、取るに足らない自分に主が目を留めてくださったことへの驚きと讃美が自然と唇からあふれ出るのでした。やがてマリアの讃美は、自分以外の人々にも向けられていきます。

「身分の低い者を高く上げ…飢えた人を良い物で満たし…憐れみをお忘れになりません」ルカ1：52～54

マリアの讃美は、弱い者、貧しい者たちを救い出してくださるために救い主が来られるという者でした。救い主が何のために、あるいは誰を救うために地上に来られるのかが、預言的に述べられているのです。この世の弱者の立場が、天国では逆転するのです。

【月曜日・イエスの宣教声明】

イエス様は安息日に会堂に入ると、イザヤ書61：1，2の言葉が目に留まり、それを朗読しました。そこには次のような言葉が書かれてありました。

「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、 主の恵みの年を告げるためである」ルカ4：18，19

このみ言葉を朗読した後、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」（ルカ4： 21）と語られたのでした。イザヤはご自分について預言したのだということを明らかにされたわけですが、その内容は貧しい人や捕らわれている人、目の見えない人、圧迫されている人など、社会的な弱者に対して福音を告げ知らせ、そこから解放するためにご自分は来たのだというものでした。この宣教声明とでも呼ぶべきメッセージは、とても重要です。イエス様は単に世の罪を取り除くためにだけに来られたのではなく、罪の結果生じた悪の結果、社会からはじき出されたような弱者を救い出すために来られたと宣言されたのです。

　実際にイエス様は「病気や苦しみや悪霊に悩んでいる多くの人々をいやし、大勢の盲人を見えるようにしておられ」（ルカ7：21）ました。その事実をバプテスマのヨハネの弟子たちは投獄されていたヨハネに伝え励ましたのでした。

【火曜日・いやされるイエス】

聖書の中には、イエス様が数えきれないほどの人々の病を癒されたことが記されています。この噂はすぐに広がり、大勢の群衆がイエス様の元に病気の癒しを求めて来るようになった。しかし、イエス様が地上に来られた目的は病気を癒すためではありませんでした。だから、イエス様は時々病気を癒した人に対して、このことを言わないようにと念を押されました。では、なぜイエス様はたくさんの人々を癒されたのでしょうか。それはイエス様の愛と憐みが、そうせずにはおれなかったからです。しかし、その結果神様を信じる信仰へと導かれるのなら、それ以上に素晴らしいことはなかったことでしょう。このようなイエス様のなさったことに対して、パリサイ人たちは不愉快でした。なぜそのような気持ちになるのかといえば、彼らの心には弱者に対する憐みも関心もなかったからです。多くの場合、イエス様がやわらげていた弱者の苦みは、こうした指導者たちの利己心と圧迫から生じたものでした。だからイエス様の奇跡は、彼らにとって一つのけん責でもあったのです。

【水曜日・宮清め】

「それから、イエスは神殿の境内に入り、そこで売り買いをしていた人々を皆追い出し、両替人の台や鳩を売る者の腰掛けを倒された。そして言われた。「こう書いてある。『わたしの家は、祈りの家と呼ばれるべきである。』ところが、あなたたちはそれを強盗の巣にしている。」マタイ21：12、13

イエス様の宮清めの物語は、4福音書すべてに記録されています。それだけインパクトがあり重要な出来事だったということですが、いつも穏やかで優しいイエス様が、激しく怒られるのですからびっくりするのも無理ありません。イエス様が怒られたのは、貧しい人たちが虐げられていたからでした。しかも神の家と呼ばれるべき神殿においてそれがなされていたのでした。貧しい人々は捧げ物をしたくても、不当に価格を吊り上げられ、買うことができなかったようです。そのことをイエス様は強盗の巣にしていると言われたわけです。この出来事は、いかにイエス様の心が貧しい者たちと共にあるのかを現わしています。

【木曜日・キリストの十字架】

「彼は軽蔑され、人々に見捨てられ、多くの痛みを負い、病を知っている。彼はわたしたちに顔を隠し、わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。彼が担ったのはわたしたちの病、彼が負ったのはわたしたちの痛みであった…」イザヤ53：3，4

「この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。」ヘブライ人への手紙4章 15節

これらの聖句を見ると、イエス様は弱い者を助けるために、彼らの辛さまで味わってくださったのだとわかります。お医者さんでも自分が病んでみないとその辛さや、心細さなどわからないものです。イエス様は、多くの人々がどれほど多くの痛みや苦しみの中にあり、また軽蔑と孤独の中にあるかを実際に味わわれました。だから、そのような苦しみの中ある人に対して同情できるのです。